

## パブリックコメントの結果及び回答案

計画案 ページ	意見概要	回答
43	福祉避難所であるが、台風シーズンだけでなく、地震・津波の際にも必要になるので、具体的にどこ施設に行けばいいのかを決めて、常に周知されている状況が望ましいと思う。	ご意見のとおり、災害の種類によっては、避難所そのものが被害を受ける場合も考えられ、想定されるリスクを考慮した設定が必要と考えます。 ただし、福祉避難所の開設場所については、避難者の状態に応じて、対応できる設備や人材を有した施設を個々に提供する必要があり、その時の空きスペースなど、対応可能状況を勘案して開設するため、事前に明確な避難場所を設定しておくことは困難と考えています。
46	日常生活圏域の5区域に合わせて、近い将来、地域包括支援センターも5つにすべきではないか。	日常生活圏域については、「地域共生社会の実現」を目指した地域づくりにあたり、各地区民生委員児童委員協議会の担当地区と合わせた5圏域に設定することとしましたが、地域包括支援センターについては、地域性や被保険者数、将来の高齢者人口、高齢化率等を考慮し、将来を見据えた上で、4つとすることにいたしました。
56	介護人材の確保であるが、依然として報酬が低く、介護従事者の生活は大変だと思う。東京都や東京都三鷹市がやっているような、介護職員に家賃補助はできないのか。	介護人材の確保にあたっては、報酬面の問題が大きいことは認識しております。 当市では、介護福祉士の資格取得を推進するため、実務者研修の受講費用助成を行っております。介護サービス事業所においては、国家資格である介護福祉士を雇用することで、介護報酬加算が得られることがあり、また、本人のスキルアップにより、介護職としての定着も図られることが期待されます。 ご提案いただきました家賃補助については、その効果や地域性を考慮し、他の事例とあわせて研究してまいります。
-	市と介護事業者の情報共有や意見交換に今一つの感がある。情報共有と意見交換の会議もあるわけだし、計画に明記してはどうか。	定例的な会議に加え、計画案P.59・60に記載のとおり、地域の課題に応じて、常に情報交換を行っており、今後も情報共有に努めてまいります。 また、日々の連携が重要と考えますので、館山市地域包括ケアシステムの実現に向け、より一層、相談・調整の体制づくりに努めます。
15・18	令和元年台風のときに停電して、復旧の見通し等の情報が全く取れず不安だった。また、コロナで人との接触がなく、1日中誰とも話さない日があり、鬱になるのではないかと不安になった。 隣近所での助け合いは、親しい間柄でないと信頼関係の構築ができない。 高齢者を情報弱者・孤立化させないための機器（情報端末）の導入等の検討をしてほしい。	災害時等における、より効果的な情報提供手段の検討は必要不可欠と認識しております。情報端末による情報提供も、1つの手段として、検討してまいります。 また、地域や隣近所でのつながりや助け合いは、「地域共生社会の実現」を目指す上でも、必要不可欠なものですので、きっかけづくりや体制づくりに努めてまいります。